

(案)

新しい「南方小学校」の 校章デザイン 募集





南方地域の3小学校を統合した新しい「南方小学校」が、令和10年4月に開校します。
新しい小学校にふさわしい校章を応募してください！
南方地域開校準備委員会

しめきり
令和7年 9/30(火)

応募資格	南方地域にゆかりがあるすべての人			例: 南方地域に住んでいる人、南方地域の学校や保育施設等に通っている人、南方地域出身の人、南方地域で働いている人など
応募方法	(1) 応募用紙(紙)を提出する場合 下欄の施設に設置する 応募用紙回収箱 に投函するか、教育委員会学校再編推進室に期間内必着で 郵送 してください。FAXでは提出できません。		(2) 電子ファイルを提出する場合 教育委員会学校再編推進室に 電子メール で提出してください。メールアドレスは下の「問い合わせ」欄に記載しています。	
	▶南方総合支所 ▶南方公民館 ▶西郷公民館 ▶東郷公民館		▶この場合、件名を「(仮称)南方小学校校章応募」とし、メール本文に氏名と連絡先を明記したうえで、記入した応募用紙(電子ファイル)を添付してください。 ▶校章デザインの画像ファイルを応募用紙の別紙として提出する場合は、別紙にも氏名を記入してください。 ▶画像はJPEGファイルまたはPDFファイルとし、添付ファイルを含めたメールサイズが6MBを超えないようにしてください。	
応募上の注意事項	(1) 応募は、1人1点です。 (2) 校章に採用された作品の著作権その他の知的財産権は、採用決定時に応募者から市教育委員会へ無償で譲渡されるものとします。 (3) 応募に必要な費用は、応募者が負担してください。 (4) 提出された応募用紙は返却しません。 (5) 応募作品が第三者の著作権・商標権等を侵害していると異議申し立てや苦情などがあった場合、応募者は自らの責任と費用負担で問題を解決するものとします。		校章の決定方法と応募作品の取り扱い	(1) 校章は、応募された校章デザインをもとに、必要に応じ色彩・形状その他の要素を補作・修正して検討し、南方地域開校準備委員会が決定します。 (2) 応募作品は、アンケートや投票など選考に必要な範囲で公表することがあります。ただし、選考の段階で氏名を公表する場合には、応募者(未成年者の場合はその保護者)の承諾を得ることとします。 (3) 採用された応募作品は、応募者氏名、居住地域または学校名・学年とあわせて、学校再編および市ホームページ等で公表します。選考結果の個別通知は、採用された作品の応募者にのみ行います。 (4) 応募者の個人情報は、校章デザインの選考以外の目的では使用せず、教育委員会において適切に管理します。
問い合わせ	南方地域開校準備委員会事務局(登米市教育委員会学校再編推進室) 〒987-0602 登米市中田町上沼字西桜場 18 番地 電話:0220-34-2679 電子メール:gakkousaihen@city.tome.miyagi.jp			
				 メールアドレス

応募用紙は裏面です。

新しい「南方小学校」の 校章デザイン 応募用紙

氏 名		学校・学年 (小中学生のみ)*	年
住 所		電話番号 (メールアドレスも可)	

*南方地域の小中学校に通っている人は、学校名と学年を書けば住所と電話番号を省略できます。

校章デザイン	作成上の注意事項
	(1) デザインは応募者自らが創作した未発表のものに限ります。 (2) 第三者が著作権等の権利を有する著作物等をデザインに使用しないでください。 (3) カラーでも白黒でもかまいません。(カラー推奨!) (4) 現在の南方地域内の小中学校の校章をモチーフとして取り入れてもかまいません。 ▷ 市のホームページにも応募用紙を掲載しています。QRコードからアクセスできます。 
説明 (デザインの意図や込めた思い、何をモチーフにしたかなど)	

南方小学校		「南」は町章。「小」の形は、鳥のはばたく姿をかたどり、南小の子供らが、大空めがけて雄々しくはばたく鳥の如く社会に雄飛して、持てる可能性を余すところなく発揮することを祈る。 <南方小 HP 掲載文を一部改変>	西郷小学校		校木は「さくら」である。校庭に並ぶ さくらの木をシンボルとして大切にしている。そのさくらの花びらを型取り、西郷小の「西」をデザイン化したものである。<学校要覧より>
東郷小学校		昭和 35 年9月制定。 詳しい由来がわかっていません。 (昭和 50 年代の記録によると、このころすでに校章の由来等が分からなくなっていたようです。知っている人は教えてください。)	南方中学校		県花宮城の萩に南方のMを末広がりデザインしたもの。三つのMは学区内三小学校を表している。萩のように清楚でおごらず、誰からも愛され三地区からの生徒はお互にふれ合いと協力で益々発展する南中を象徴している。 <『宮城の中学校四十年』より>